

学校名	さいたま市立大原中学校
所在地	埼玉県さいたま市大原3 - 1 - 11
電話	048 - 831 - 5397

1. 本校の概要

本校はさいたま市を南北に流れる見沼代用水の西縁に沿った緑豊かな自然環境の中にある。三角形の回廊方式という特色ある校舎を有し、生徒数は689名で、18学級である。多くの生徒は学習に意欲的に取り組み、感性も豊かである。

2. 本校の実践の概要

(1) 本校の実践の特色

本校では学校図書館教育目標の一つを「人格形成の基礎となる読書の指導を推進し、心豊かな生徒の育成に努めること」とし、平成11年4月よりコンピュータによる蔵書管理、検索、貸出し等を開始して学校図書館の情報化・活性化に努めた。

学校図書館の整備

原則として学校図書館司書が勤務する日を全日開館日とし、生徒がいつでも気軽に利用できるようにした。教科の要望による調べ学習用図書、大原中独自の図書購入基準に合わせた必要図書、生徒のリクエストの三点から購入図書を選定し、計画的な図書整備を進めた。また、総合的な学習の時間への対応も考え、新聞の切り抜きやインターネット資料、各種パンフレット等のファイル資料の収集・整備にも努めた。更に「心のオアシス」となるよう文芸部や図書委員会の生徒の手による古典作品のちぎり絵、手作り絵本、新着本紹介ポスター等で環境を整備し、書架用分類ラベルも生徒手作りのものに替えて温かい雰囲気づくりを心掛けてきた。

朝の10分間読書

始業時間の8時30分から10分間、全校一斉に実施している。本は生徒自身の興味・関心等に応じたものを選ばせ、読書記録や感想メモは原則として書かせないこととした。本校は職員の朝の集会を行っておらず、学級担

任も始業時間から教室で生徒とともに読書をしている。

国語科における読書指導

年度初めに国語科が中心となり、全校生徒を対象に学校図書館利用指導のオリエンテーションを実施している。また、目的に応じた確に読み取る能力や、進んで読書に親しむ能力の育成を目指し、発達段階を考慮した学校図書館を活用する表現活動に取り組んでいる。

実践 1学年 グループ単位のブックトーク
 2学年 「埼玉の文学案内」編集
 3学年 「京都・奈良ゆかりの文学作品紹介新聞」の作成
 毎年1回 朝読書の本を紹介する「しおり」作り

(2) 家庭や地域との連携

P T A 学校図書館ボランティア

P T A 役員会後、定期的に新聞記事の切り抜き作業、子供たちに読ませたい記事の掲示、本の修理やラベル貼りを行っている。

市立図書館との連携

旧浦和市立図書館に併設されている学校図書館支援センターでは、レファレンス対応や学校図書館への団体貸出しを行っている。本校では、積極的に授業で活用している。

3. 成果と今後の課題

全校で「朝の10分間読書」に取り組むことによって生徒は落ち着いた雰囲気の中で1時間目の授業に臨むことができるようになった。また、本をいつも身近な所に置くことによって、読書が生活の一部になってきた。

収集を始めて4年目を迎えた新聞の切り抜きやパンフレット等は、「総合的な学習の時間」において活用され、生徒の様々な要求に対応できるようになった。

学習活動を支える学校図書館の機能を更に充実させるためには、教員間の緊密な連携を図った取組が重要課題と考える。